

特 記 仕 様 書

社会資本整備総合交付金
(特定地区公園事業)

施設整備工事（その3）

長生郡睦沢町下之郷地先

令和3年度

第1章 総 則

第1節 総 則

第1条 適 用

1. この特記仕様書は、千葉県土木工事共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）という特記仕様書で、本工事の施工に適用する。また、本特記仕様書および図面・数量計算書等に記載されていない事項については、「公園緑地工事共通仕様書（国土交通省都市局公園緑地・景観課）」および「屋外体育施設の建設指針（（公財）日本体育施設協会編〈最新版〉）」の規格・標準に基づいて施工するものとし、これらに記載なき事項については監督員と協議しその指示に従うものとする。
2. この工事の施工にあたっての一般的事項は、共通仕様書によるものとする。
3. この工事は、別添設計書（図面・数量計算書等）に従い施工するものである。

第2条 現場代理人及び主任技術者等（契約書第11条）

- ・本工事の主任技術者又は監理技術者は、「管理技術者資格者証」の交付を受けている者とする。

第3条 公共事業労務費調査に対する協力について

1. 本工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合、請負者は、調査票等に必要事項を正確に記入し発注者に提出する等必要な協力を行わなければならない。
2. 調査票等を提出した事業所を発注者が事後に訪問して行う調査・指導の対象に請負者になった場合、請負者は、その実施に協力しなければならない。
3. 公共事業労務費調査の対象となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、請負者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行っておかななければならない。
4. 請負者が、本工事の一部について下請契約を締結する場合には、元請負者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。）が第3項と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

第4条 再生資源利用計画・実施計画書について

- ・別紙「建設副産物に関する特記仕様書」による

第5条 段階確認

- ・請負者は、下記の工種の施工段階においては、段階確認を受けなければならない。この際、請負者は、工種、細別、確認の予定時期を監督職員に書面により報告しなければならない。

ただし、段階確認の実施時期及び実施箇所は監督職員が定めるものとする。

種 別	細 別	施工段階（確認時期）	摘要
床土（土壌改良材含む）		施工前、施工中	丁張など
張芝（ロールイフ）		施工前、施工中	丁張など
初期養生		施工前、施工中	

※その他、監督職員の指示による。

第 6条 施工管理

1. 本工事の施工管理は、千葉県土木部が定める千葉県土木工事施工管理基準及び規格値によるものとする。
2. 工事写真管理は、千葉県土木工事施工管理基準に記載する写真管理基準による。

第 7条 工事中の安全確保

1. 工事の施工にあたっては、「道路工事保安施設設置基準」に基づき適切な交通管理を行うものとする。ただし、これによりがたい場合は監督職員と協議するものとする。
2. 工事期間中は、夜間における安全確保のため保安要員を巡回させ、道路灯、バリケード等保安施設の保安点検を行うものとする。
3. 工事期間中に配置する交通整理員及び誘導員は下記のとおりとする。
 - ・工事実施必要時
4. 工事の施工に際し、地下埋設物件等が予想される場合は、その管理者と現地立会のうえ、当該物件の位置、深さ等を確認し、保安対策について十分打合せを行い、事故の発生を防止しなければならない。
5. 請負者の責により地下埋設物件等に損害を与えた場合は、速やかに監督職員に報告するとともに関係機関に連絡し応急措置をとり、請負者の負担によりこれを補修しなければならない。
6. 埋設物件等の管理者不明のものがある場合は、監督職員に報告し、その処置については占用企業者全体の立会を求め、管理者を明確にしなければならない。

第 8条 工事現場管理

- ・請負者は、工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。
 - (1) 積載重量制限を越えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
 - (2) さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
 - (3) 過積載車輛、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
 - (4) 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
 - (5) 建設発生土の処理及び骨材の購入等にあたって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
 - (6) 以上のことにつき、下請業者にも十分指導すること。

第 9条 建設機械の使用

1. 本工事の施工にあたり下記機種の建設機械を使用する場合は、標準操作方式建設機械指定要領（平成3年10月8日付け建設省経機発第248号 最終改正平成8年3月22日付け経機発第35号）に基づき指定された建設機械を使用するものとする。ただし、指定されていない建設機械を使用する場合は監督職員と協議するものとする。ただし、平成6年9月30日以前に製作された移動式クレーン、平成7年3月31日以前に製作されたブルドーザについては、この限りではない。

機 種	備 考
バックホウ（油圧ショベル）	
移動式クレーン （平成6年10月1日以降に製造されたもの）	クローラクレーン トラックスレーン ホイールクレーン
ブルドーザー （平成7年4月1日以降に製造されたもの）	

2. 本工事に使用する建設機械は、排出ガス対策型建設機械とする。

本工事の施工にあたり下記機種の建設機械を使用する場合は、排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付け建設省経機発第249号 最終改正平成8年3月22日）に基づき指定された建設機械を使用するものとする。

機 種	備 考
・バックホウ ・トラクタショベル 車輪車 ・ブルドーザー	ディーゼルエンジン（出力7.5kw～260kw）を搭載した建設機械に限る。ただし、道路を走行する自動車の保安基準に排出基準が定められ、有効な自動車検査証の交付を受けているものは除く。

ただし、これによりがたい場合は監督職員と協議すること。

第10条 安全・訓練等の実施

・本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着手後原則として作業員全員の参加により月当り半日以上時間を割り当て、下記の項目から実施内容を選択し安全・訓練等を実施するものとする。

- (1) 安全活動のビデオ等視覚資料による安全教育
- (2) 本工事内容等の周知徹底
- (3) 土木工事安全施工技術指針等の周知徹底
- (4) 本工事における災害対策訓練
- (5) 本工事現場で予想される事故対策
- (6) その他、安全・訓練等として必要な事項

第11条 安全・訓練等に関する施工計画の作成

・施工に先立ち、作成する施工計画書に本工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督職員に提出するものとする。

第12条 安全・訓練等の実施状況報告

・安全・訓練等の実施状況を報告するものとする。

第13条 環境対策

・建設機械の使用に当たっては、排出ガス対策型建設機械とすること。

第14条 工 期

・工期は、雨天、休日等を考慮し、契約締結日（契約の締結に係る議会議決日）から令和4年11月30日迄とする。なお、休日には、日曜日、祝日の他、作業期間内の全ての土曜日を含んでいる。

第15条 施工時間

・本工事の作業区分は下記によるものとする。

作業区分	施工区分
昼間作業	すべての工事

ただし、上記区分に変更を要する場合は監督職員の承諾を得るものとする。

第2章 材 料

第1節 適 用

第16条 海外建設資材

- ・ J I S 規格が定まっている建設資材のうち、海外において J I S 認定工場以外で生産された建設資材を使用する場合は、（財）土木研究センターまたは（財）建材試験センターが発行する海外建設資材品質審査証明書を提出するものとする。
ただし、J I S 認定製品として生産・納入されていない建設資材については必ずしも海外建設資材品質審査証明書を必要としないものとする。

第2節 材料の品質及び検査確認等

第17条 材料の確認

- ・ 下記の材料の使用にあたっては、その外観及び品質証明書等を照合して確認した資料を事前に監督職員に提出し、確認を受けなければならない。

区 分	確 認 材 料 名	提 出	摘 要
床土工	透水シート、黒砂、土壌改良材	○	
張芝工	芝（改良高麗芝）	○	農林水産省登録品種

第18条 J I S 製品記号

1. 設計図書中の J I S 製品記号は、J I S の国際単位系（S I）移行（以下、「新 J I S」という。）に伴い、すべて新 J I S の製品記号としているが、旧 J I S に対応した材料を使用する場合は、旧 J I S 製品記号に読みかえて使用出来るものとする。
2. 設計図書中の J I S 製品記号は、J I S の国際単位系（S I）移行（以下、「新 J I S」という。）に伴い、すべて新 J I S の製品記号に読みかえるものとする。
ただし、旧 J I S に対応した材料を使用する場合は、読みかえずに使用出来るものとする。

第3章 一般施工

第1節 共通的施工種

第19条 工事用道路

1. 運搬路に使用した既設道路の舗装等に破損が生じた場合は、速やかに監督職員に報告し、補修しなければならない。
2. 資材等の搬入路においては、材料等が散乱しないように十分注意を払い、工事完

了後には良好な状態へ復元できるよう配慮し作業をしなければならない。また、大型車両を使用した資材等の搬入の際には、交通誘導員を配置し道路利用者等の安全に努めることとする。

第20条 周辺環境等への配慮

1. 本工事实施に際し、稲作等の耕作等に支障のない様、十分注意し施工すること。
2. 水田及び道路法面について、今後の維持管理に支障のない様、砂利を混入させないこと。

第4章 グラウンド・コート整備工

第21条 天然芝舗装（張芝）

1. 天然芝はロール芝とし、幅500mm以上、長さ2000mm以上とすること。
2. 天然芝については、農林水産省に品種登録された改良高麗芝を原則とするが、生産場所の状況等により、改良高麗芝の納入（確保）が困難となる場合は変更を認めるものとし、芝生の納入前に使用材料及び生産場所等について監督員に提出し承認を受けること。ただし、本件に伴い変更が生じた場合は、総工事価格の範囲内で対応すること。

第22条 天然芝舗装（床土）

1. 黒砂混合土（黒土：6割、洗砂：4割）は、300mmとし、肥料等について均一に散布等を行い、深さ150mmまでの床土と混合すること。
2. 土壌改良材について、図示した材料を原則とするが、使用する芝や黒土・洗砂等の状況により変更を認めるものとし、肥料等の納入前に使用材料及び生産場所等について監督員に提出し承認を受けること。ただし、本件に伴い変更が生じた場合は、総工事価格の範囲内で対応すること。
3. 土壌改良後、所定の高さになるように整地を行うこと。

第23条 初期養生管理

1. 散水栓等の散水設備については、施設に備え付けのものを無償で利用できるものとし、使用にあたっては監督員と協議するものとする。なお、必要となる電力および水については、受注者の負担で対応するものとする。
2. 養生作業は、次の項目・回数を標準とし、事前に養生管理計画を監督員に提出し、承認を受けること。
 - ① 刈込み・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10回
 - ② 粒肥料散布（15～20g/m²）・・・・・・・・・・ 3回
 - ③ 液体資材散布（速効性液体肥料、土壌活性化材）・・・・ 3回
 - ④ 薬剤散布（殺菌剤、殺虫剤）・・・・・・・・・・ 2回
 - ⑤ 転圧（1tローラー）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1回
 - ⑥ 除草（手取り除草）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2回
 - ⑦ 散水（48.7m³/回/日）・・・・・・・・・・・・・・・・ 50回
3. 養生作業用の必要機械は受注者の持ち込みとし、機械の置場は現場内の適所とする。
4. 適期に芝生の育成状況の検査を実施し、不良芝については監督員と協議の上、同様の芝生の張替えを行うものとする。

第5章 その他

第24条 請け負おうとする建設業者からの事前説明に関する事項

1. 法第12条で、対象建設工事を請け負おうとする建設業を営む者は、発注者に対し、対象建設工事の届出に関する事項を記載した書面（説明書）を提出し説明を行うこととする。
2. 書面の提出は、契約に先立って行うこととする。
3. 書面は施工計画書に添付するものとする。

第25条 震災対策

1. 地震発生等の天災に備えて、あらかじめその対応策を定めておくものとする。
2. 地震予知情報等が発令された場合は、直ちに工事を中断し、その情報に応じた適切な保全措置を講ずるものとする。

第26条 提出書類

- ・提出書類は次のとおりとする。
 - (1) 提出書類のサイズは、原則としてA4版とする。
 - (2) 乙は工事完了後、土木工事施工管理基準に基づく各種の記録写真等関係書類をパイプファイルに綴ること。

別添様式

工 事 名	請負者名	
項 目	評 価 内 容	備 考
<input type="checkbox"/> 高度技術 工事全体を通して他の類似工事に比べて、特異な技術力	<input type="checkbox"/> 施行規模	
	<input type="checkbox"/> 構造物固有	複雑な形状の構造物 既設構造物の補強、特殊な撤去工事
	<input type="checkbox"/> 技術固有	特殊な工種及び工法 新工法（機器類を含む）及び新材料の適用
	<input type="checkbox"/> 自然・地盤条件	湧水、地下水の影響 軟弱地盤、支持地盤の状況 制約の厳しい工事用道路・作業スペース等 気象条件の影響 地滑り、急流河川、潮流等、動植物等
	<input type="checkbox"/> 周辺環境等、 社会条件	埋設物等の地中内の作業障害物 鉄道・供用中の道路・建築物等の近接施行 騒音・振動・水質汚染等環境対策 作業スペース制約・現道上の交通規制 廃棄物処理
	<input type="checkbox"/> 現場での対応	災害等での臨機の処置 施行状況（条件）の変化への対応
	<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 創意工夫	<input type="checkbox"/> 準備・後片付け	
	<input type="checkbox"/> 施工関係	施工に伴う機械、器具、工具、装置類 二次製品、代替製品の利用 施工方法の工夫 施工環境の改善 仮設計画の工夫 施工管理、品質管理の工夫
	<input type="checkbox"/> 品質関係	
	<input type="checkbox"/> 安全衛生関係	安全施設・仮設備の配慮

		安全教育・講習会・パトロールの工夫 作業環境の改善 交通事故防止の工夫
	<input type="checkbox"/> 施工管理関係	
	<input type="checkbox"/> その他	
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や住民 に対する貢献	<input type="checkbox"/> 地域への貢献度	地域の自然環境保全、動植物の保護 現場環境の地域への調和 地域住民とのコミュニケーション ボランティアの実施

1. 該当する項目の☐にマーク記入。
2. 具体的内容の説明として、写真・ポンチ絵等を説明資料に整理。

高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況（説明資料）

工 事 名			／
項 目		評価内容	
提 案 内 容			
(説 明)			
(添 付 図)			

説明資料は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。